

# 留 学 報 告 書

平成 30 年 10 月 24 日

学 部 法文 学科・課程 法経

氏 名 岸上 泰斗

※ 留学先大学での成績証明書を添付すること。（島根大学に直接送付される場合はよい）

1. 留学先大学・学部 国名 ドイツ

大学名 トリア大学

現地到着日（2017 年 9 月 18 日） 授業開始日（2017 年 10 月 16 日）

現地出発日（2018 年 7 月 20 日） 授業終了日（2018 年 7 月 13 日）

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

パスポートの申請及び取得, 留学先の大学への申請, 大学寮へ入るための  
現金の送金, 航空券購入, フランクフルトからトリアへの移動するための  
電車券予約, ビザのための書類準備

3. 自宅から留学先大学までの交通手段（乗物の種類, 乗り換え地, 所要時間）

徒歩 10 分以内

#### 4. 留学先大学での各種手続きの仕方

ビザは、必要書類を全て準備してキューターに渡し、1か月後くらいに役所へ取りに行く。保険金は複数の選択肢がある。自分は core concept で申し込む。ネットで申し込み可能で、日本語での登録の解説があり。銀行口座の開設はキューターと一緒に銀行へ行って、いくつかの説明を受け、書類にサインすることで開設する。キャッシュカードは後日郵送。解約は銀行の窓口でできる。寮の引き落としもこの口座で行われる。

#### 5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

最初にテストを受けて、自分のレベルに合ったクラスに振り分けられる。オリエンテーションは、A1の場合、軽いドイツ語の文法や単語を中心とした授業とディスカッションやプレゼンなど。リスニング、リーディング、ライティングを学んだ後に DAF のクラスにレベル毎に分けられる。ゲニテの証明書を提出すれば DAF の免除はできる。テストを受けて分けられた後でも交渉すればクラスも納められる。

#### 6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

DAF の授業は教科書を伴って行う。時間は 90 分で、週 (25 回) の授業がある。基本は問題を解いたりその説明だが、ディスカッションなど話すこともよくある。テストは、リーディング、ライティング、リスニングなど、40 時間くらいかかる。他の授業は講義形式のものであればほとんど自由に受けられる。ゲニテの人数のものは相談したいほうがいい。

#### 7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

Japanisch Geschichte 日本の簡単な歴史なのでドイツ語があまりできなくても参加しやすい。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

寮は自分で選べないが、その年に来た同じ大学の留学生たちは同じ寮になる。  
キッチン・シャワー・トイレ付きの個室で、日本の学生は共同部屋になることは  
ない。遠い寮だとバスでの移動が必要になる。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子（行事など）、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、

(いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等)  
寮のカギを部屋に置かれては色々と面倒なので、無くすと50ユーロくらい  
払わないといけない。ドイツの排水管はフタが小さいので、まめな洗剤が必要。あ  
かびがはえやすいのでまめな換気が必要。退寮時には、事前にHausmeisterに  
連絡をして日付を決めておく必要がある。周りの人と騒音はドラッグになりやすいので  
注意すること。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

(どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等)  
日本ではJFJ銀行のデビットカードを持ち、キャッシングも利用。ドイツの銀行は  
Sparkasseという地方銀行を口座も開設。  
外国為替は国際情勢に影響されるのでカードを使っているで構造物が急  
に上がることも多い。財布とスマホはスポンのポケットに入れていたが大丈夫だったか  
け、こう被害にあっている人も多いので注意が必要。

11. キャンパス案内（どんなとき、どこへ行けばよいか等）

Mensa・C.A.B. cafe などで食事を食べる。studierwerk は住居について、  
他の留学に困ったら留学生担当の人にメールした。

12. 現地案内 (買物, 銀行, レストラン, 理髪店, 美容院等の様子)

大学近くのスーパーでLidlが一番安い。駅近くのKauflandもかなり安い。レストランはどこに行っても基本日本より高い。家電などは色々置きたい場合はKaufhofに行けばいい。フリペイドSIMを買う時は、ネットではなくO2などの正規の店で買うこと。担当者がいないし問題はあっても大抵心して来ない。大学近くに郵便局や薬局があるのて生活は大学周辺だけでいいかも。自分の思い通りの髪形にはいから日本経営の理髪店に行くこと。

13. 失敗談 (どんな小さなことでも)

下町周りを歩いて行ったら困ったことがあったこと(道が分からないがネットが体にならない)。

節の言語のレベルが低すぎて意思疎通ができなかった。

14. 病気になった場合の対応について (医療費はどのようになっていたか, 保険等はどのようにしたか)  
保険は、大学で加入した。

フランクフルトに着いた初日に食中毒になったが、フランクフルトの日本語OKの病院へ行った。医療は覚えてない。

15. お世話になった方々

タンディム・ポーター、クルーガン・ヤム・Schillitz先生、国際交流課、  
法経学課 教授の方たち、Hansmeister。

16. 留学先国内旅行について (場所, 手段, 費用, 旅行社等)

Blurg Eltz, Koblenz → 電車、無料

Berlin → 電車 (DBで予約), 往復120€くらい。ホテルはAgoda

München → 電車(こ), 往復100€

Köln → 電車, 一日乗り放題のチケットで40€

Frankfurt → 電車, 地下鉄 (クルー7年チケットで12€くらい)

17. 気候と服装について

冬は寒く、日が暮れるのが早い。(日が上がるのが8時くらいで、暮れるのが5時くらいになる)。大学は山の上なので一番寒い時(2月半ば)が-10℃を下回る。

夏は昼間だと30℃近くまでいくことある。雨が降ると月に寒くなることもあった。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの (学用品, 衣服, 食品, 薬, 運転免許証等)

辞書, 着物, 日本食(インスタが良い), 鎮痛剤等の薬

贈り物どうに日本の雑貨があると良い。

スマホ(スマホカバー)

19. 留学に際し最も役立つ本は (専門書, 旅行案内書を含めて)

地球の歩き方

旅行の準備から旅行しながらでも使える万能書。必ず持っていくことをおススメする。

20. ホームステイの依頼方法

分からない

21. 留学費用について

- |                                       |                                          |
|---------------------------------------|------------------------------------------|
| 1) 旅費                                 | (往) <u>70,000</u> 円, (復) <u>90,000</u> 円 |
| 2) 準備費用                               | <u>                    </u> 円            |
| 3) 大学へ納入する費用                          | <u>                    </u> 円            |
| 授業料 (年間合計)                            | <u>500,000</u> 円                         |
| 保険等その他の費用                             | <u>12,000</u> 円                          |
| 4) 住居費 (光熱費等含む)                       | <u>500,000</u> 円                         |
| 5) 衣服代, その他雑費                         | <u>100,000</u> 円                         |
| 6) 帰国時の土産代, 郵送料等                      | <u>100,000</u> 円                         |
| 7) 留学先国内旅行費用                          | <u>                    </u> 円            |
| 8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額                | <u>1,500,000</u> 円                       |
| 現地通貨 <u>1.2万€</u> 日本円換算 <u>190万</u> 円 |                                          |

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

服は7kgを送る時の余裕を考慮してダンボールに詰め送ったが、基本的にはドイツで処分した。ダンボールはDHLで買入るとサイズが分かって簡単。送るのはけっこうな額がかかるので捨てるのも良いものを持って行って帰国まで処分してしまおうのも一考の手だてと思う。

日本にずっといただけで、海外は危ない、言葉が分からなから放  
行すべきでないなど、固定観念を持ってしよう。実際にドイツへ行ってみると、  
自分が気を付けていれば、何も起きないし、英語やドイツ語が上手に話  
せなくてもどうにかなるものである。ドイツで聞くと典型的なきれいなヨーロッパ  
風の街や、欧州人たちを思い、羨みを感じるがもしもないがそんなことはない。  
ドイツの街はたばこのポイ捨てが多く、道は汚れているし、移民がたたく  
ため地域によっては、中東系の人にも多く見る。しかし、日本とはまったく  
違う外観の建物が、人種も言語も文化もまったく違う人間たちと  
つたない言葉でもコミュニケーションを取ることが勉強になる。自分の将来に  
おいてマインになることはない。自分はナショナリズムに興味がない。  
ドイツではマイノリティとして移民に並い立ち位置で生活してきた。ドイツは  
歴史的にポーランドやイタリアのヨーロッパ系とトルコ系の移民が多かった。  
これらの人々は、ドイツの文化になじみ、ケバブなどはもはや国民的  
ファストフードになっている。しかし、シリアなどの中東系の移民はなじんで  
いない。ドイツから見れば文化が大きく異なるし、人々は集まって街を作る  
こともある。もちろんそのような人々を集めれば話す言葉はドイツ語ではない。  
まったく違う異国に主として、日本語が通じる人は珍しく、日本語で話して  
しよう。しかしそうすると、ドイツ人や他国の人々とはなじめない。これは最近の移民  
についても同じである。ドイツになじもうとしない移民が存在する。石研究す  
うた。この視点はあもしろいものだと思った。

留学は社会人になると難しく、もし行きたければ今が大きな機会である。  
学生生活をあつという間、時間が経つものであるし、悔いのないことを  
やってほしい。